

松尾 和也さん
(有限会社松尾設計室 代表取締役室長)
(一般社団法人パッシブハウス・ジャパン 理事)

住宅のエネルギー を考える懇談会を開催

11月29日(日)、宝塚市立西公民館で「住宅のエネルギーを考える懇談会」が開催されました。参加者は45人でした。

松尾先生の具体的な数字を根拠にされたご説明はわかりやすく、参加者の皆さんからも好評でした。また、ワークショップでは皆さんから優れた取組みをたくさん紹介していただきました。

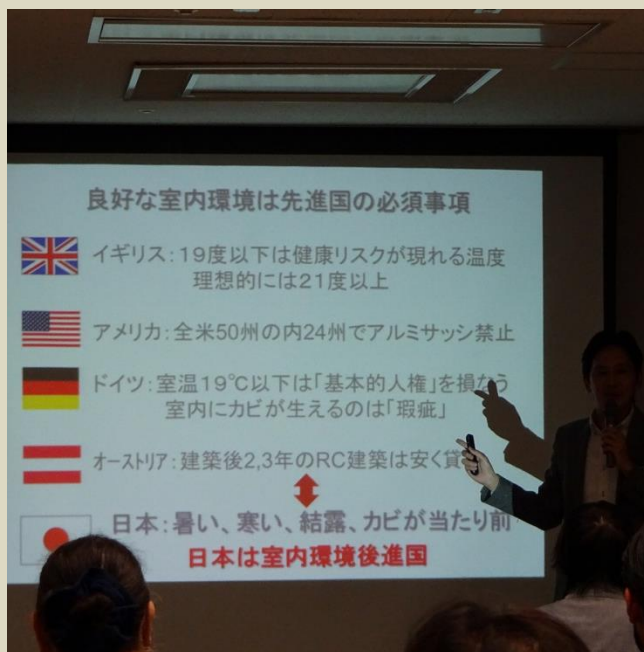
スタッフの方で当日の話題をいくつかピックアップしています。

第 I 部 講演:住宅のエネルギーを考える-再エネと省エネ-

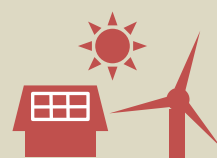
日本は室内環境後進国？

松尾さんのお話によれば、欧米先進国では最低室温基準(18~22℃)があるなど室内環境と健康に関する規制があるとのことでした。

一方、「日本では室温10℃以下が当たり前であり、ヒートショックにより年間17,000人以上が亡くなっています。交通事故(年間4000人)と違って規制もなく、室内環境については後進国と言えます」とお話しされました。



各国の室内環境についての
認識や規制



脱衣所の室温を2℃上げると介護期間が4年短縮

リフォームは浴室を

住居の中でも浴室については「脱衣所は25℃以上」「湯温は41℃以下」にする環境を整えるべきとのお話がありました。

「脳卒中や心筋梗塞の原因の多くは、浴室等の寒さが原因です。特に浴室の寒さとお湯の熱さの温度差は血圧の急激な変化を引き起こします」

「退職後のリフォームは『汚れた水回り』や『内装』が選ばれがちですが、『亡くなる危険性の高い場所』からされては」と提案されました。

「30～40代を対象にした講演で『親の介護期間を4年遅らせることのできる場合、金額的にどのくらい価値がありますか』と聞くと、だいたい200万円以上のところで手を上げる方が多いです。200万円あればお風呂のユニットバス化により浴室を暖めることはできます」

まずは窓から

住まいに関するアンケート結果の紹介があり、「住まいへの不満」の上位は「暑い」「寒い」「結露」とのことでした。

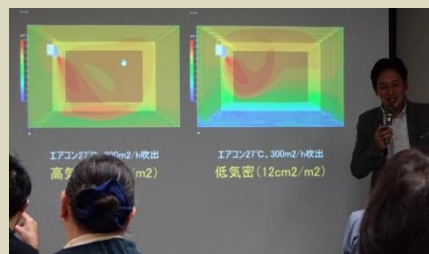
「今の住宅では、寒さの原因の5割、暑さの原因の7割が『窓』だと言われています。つまり上位3位がすべて窓に関する不満なんです」



住まいの不満等ランキング
上位3位は全て窓が原因

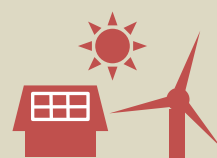
「窓の断熱性能はU値※ではかることができます」

「フランスの住宅の最低基準はU値=2.1ですが、日本の住宅メーカーで新築の際によく使われているものはU値=2.9のLow-Eガラスです」と、断熱効果の高い窓の設置について提案をされました。



窓の断熱性能の低い家では
冷気が室内下部で滞留する

※1時間あたりに「どれだけ熱量が抜けるか」を表す指標



第Ⅱ部 住宅のエネルギーを考えるワークショップ

ISEPの古屋さん(吉岡さん)の進行の下、参加者の皆さんが持参されたエネルギー診断シートを使ってワークショップを行いました。参加者の皆さんはこの日、ご自宅についてのエネルギー診断シートを持参されており、ご自身のお住まいの中で、「どの部分が寒い、熱い」といったことから、「普段、給湯や暖房などにどんな家電を使っているか」など、紹介しあい、最後にグループごとに発表しました。



古屋 将太さん
(認定NPO法人環境エネルギー政策
研究所・研究員)
(オールポー大学大学院 開発・
計画プログラム博士課程修了)



各グループでワークショップ

-Group 1-

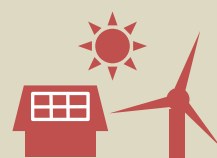


戸建てグループの皆さん

断熱等の必要性は感じつつも、ワークではやはり「経済性」というキーワードについての話に多くの時間を費やすことになりました。しかし、窓の改修や床暖房をされた方々は「確実に快適かつ過ごしやすくなった」という意見で一致していました。

日本では男性の平均介護年数は9年、女性は12年と先進国の中でも異常に長いです。自分が介護状態になった時のためにお金の準備をするか、そうならない為に暖かくしておく方をとるのか考える必要があります。





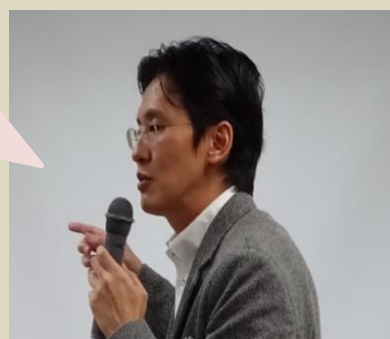
-Group 2-



マンショングループの皆さん

マンション自体が密閉空間で省エネではありますが、その中でもベランダにすだれや植物などの日よけや、玄関内部にアコーディオンを設置したり、障子を用いるなど様々な対策をされている方がおられました。

確かにマンションに住んでいる時点で一定程度省エネであり、しかも共用部は触れられないのでできることは少ないです。ですが、窓にインナーサッシをつけておくことはいいと思います。また、夏場のすだれはいいのですが、逆に冬の昼に同じことをすると入ってくる日射を捨ててしまうことになるので注意が必要です。



-Group 3-

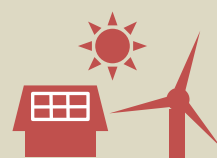
「風呂場が寒いく、入るときにシャワーで暖める」「あずきカイロを使って暖める」「エアコンのフィルターを掃除する」という意見がありました。また、ペアガラスは二重にするだけでずいぶん温度が変わることと、内側からつけるだけで良いことを皆さんと共有することができました。



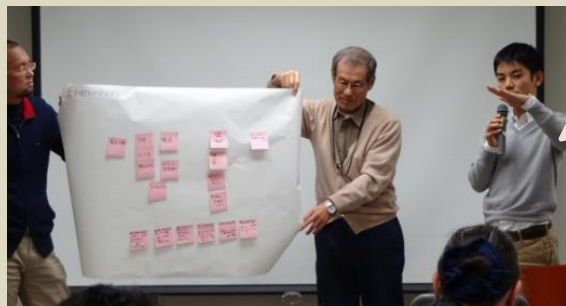
戸建てグループの皆さん



エアコンフィルターは自動掃除機能がついていないものは1か月に1度は掃除した方が良いです。あと、寝ている時に冷たい空気を吸うことを防ぐためにマスクをすることも心疾患を予防する為にとっても安いけれど有効な取組だと思えます。



-Group 4-



マンショングループの皆さん

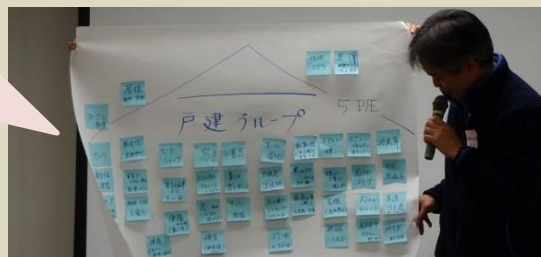
マンションであるため窓対策を自ら行う場合や両親に提案する場合、エネルギー消費や金額がどのくらい変わるかといった数値があれば面白いと思います。空気の循環とかライフスタイルの変化も取り入れる必要があると思います。

マンションの場合、たいてい部屋を南北に隔てる扉が通路にあります。窓の断熱をしっかりしていれば扉を開けていても光熱費がそう変わりません。そうすることで、風呂や洗面に行く時も寒くならないようにすることができます。

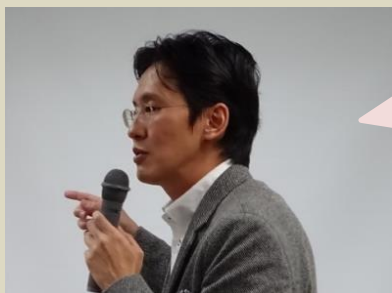


-Group 5-

「ふたや扉を開けて風呂の熱を開放し、脱衣所を温かくする」といった意見や、「リビングを上に入れて、暖気を上に、冷気を下に送る」など、空調を工夫する取り組みをされている方がいました。



戸建てグループの皆さん



空調の話でいいますと皆さん夏場によく窓を開けると言われますが、もはや宅地においては風は吹いてこないです。エアコンは部屋の中の湿気を集めて外に捨てているので、エアコンを使った後に窓を開けるとまた湿気が入ってきてしまいます。

古屋さんのまとめ

今日皆さんが作って来られた簡易診断シートは、自分で把握するだけでなく、家に持ち帰って家族の方に「今日こんなことやったよ」と紹介すると「そうなのね」と家庭内で取組を始めていくきっかけになりますので、ぜひこれを見て家族で色々とお話していただければと思います。

